

**平成26年度 生涯学習・社会教育総合調査研究事業
学齡期における家庭教育支援の在り方に関する
調査報告書**

平成27年 3 月
青森県教育委員会

はじめに

青森県教育委員会では、本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎データを得ることを目的として、「生涯学習・社会教育総合調査研究事業」を実施しております。

本県の未来を担う子どもたちが、ふるさとに愛着と誇りを持ち、チャレンジ精神にあふれ、たくましく成長するためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚しつつ、連携・協働して取り組むことが何よりも大切です。

特に、家庭教育はすべての教育の原点であり、子どもたちが基本的な生活習慣や人に対する信頼感、豊かな情操、自立心や自制心などを身につける上で重要な役割を担っています。

しかし、近年の急激な社会環境の変化から、地縁的なつながりの希薄化等により子育てにおいて孤立する親の増加や、子育て家庭を支える地域の力が弱まっている傾向があります。

このような状況を踏まえ、今年度は、親子が共に学び、育ち合う家庭教育を支援するとともに、学校・家庭・地域の様々な人々のつながりにより、社会全体で子どもたちの「生きる力」を育む取組を進めるため、学齢期における家庭教育支援の現状について調査することとしました。本調査結果が、今後の家庭教育支援の在り方を検討する際の基礎資料としての参考となれば幸いです。

最後になりましたが、調査対象者としてアンケートに御協力いただいた多くの県民の皆様にご心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

青森県教育庁生涯学習課

課長 中野 聖子

目 次

第1章 調査の概要

1 調査の名称	1
2 調査の目的	1
3 調査対象	1
4 調査方法	1
5 回収結果	1
6 対象市町村及び回答数	2
7 地区別回答数の割合	2
8 研究顧問	2

第2章 調査結果

1 調査結果の見方	3
2 調査回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 居住地	3
(4) 調査回答者の子どもの学年	3
(5) 調査回答者の子どもとの続柄	4
(6) 現在の職業	4
(7) 家族の人数	5
(8) 家族形態	5
3 親子のふれあいについて	6
4 家庭教育（子育て）支援について	12
5 家庭の教育力について	20
6 日常生活や社会一般に関する意見について	25
7 家庭におけるキャリア教育について	27

第3章 考察

第4章 資料

1 単純集計結果表	36
2 調査票	47

第1章 調査の概要

1 調査の名称

学齢期における家庭教育支援の在り方に関する調査

2 調査の目的

国の教育振興基本計画の4つの基本的方向性の一つである「社会を生き抜く力の養成」において、確かな学力、豊かな心、健やかな体から成る「生きる力」を確実に育成することが掲げられている。もとより、児童生徒の知・徳・体の充実に向けては、学校・家庭双方の連携・協力が不可欠であるとともに、保護者の意識の喚起が求められるところである。

このことから、保護者を対象とした意識調査を行い、その結果を、学齢期（小・中学校段階）において充実した生活時間を過ごすための家庭教育支援の在り方を探るための基礎資料として活用する。

3 調査対象

- 青森県内に在住する小学校5年生の保護者 2,504人
- 青森県内に在住する中学校2年生の保護者 2,454人

4 調査方法

- 質問紙による調査法

市部・郡部の人口バランスや地域バランスを考慮して抽出された対象小学校及び中学校へ質問紙を送付し、学校を通じて小学校5年生及び中学校2年生の保護者に[お父さん用]・[お母さん用]各1部ずつ配布してもらった。記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名で回収した。なお、調査票の印刷・発送・回収、調査結果の集計業務は、業者へ委託した。

- 調査業務委託先 株式会社サンブラッソ・エイティーブイ
- 調査票の発送 平成26年9月20日(土)
- 回答期限 平成26年10月8日(水)までに投函
- 回収調査票 平成26年10月31日(金)分まで回収

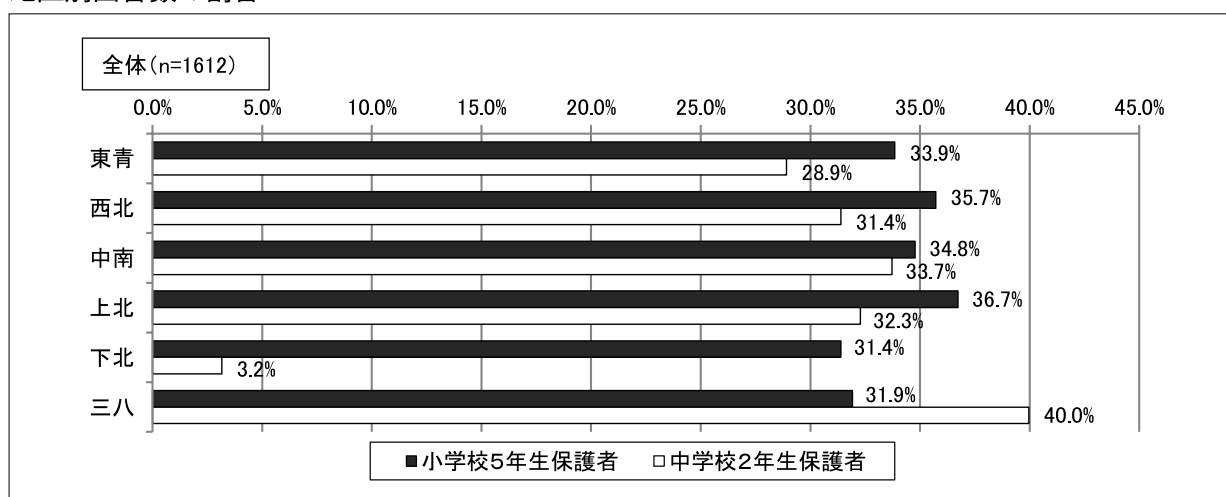
5 回収結果

	配布数 (人)	回収数 (人)	有効回答数 (人)	回収及び有効回答率 (%)
小学校5年生の保護者	2,504	856	856	34.2%
中学校2年生の保護者	2,454	756	756	30.8%

6 対象市町村及び回答数（22市町）

	地区	市町村名	配 布 数		回収及び有効回答数		回 収 率		
			小学5年	中学2年	小学5年	中学2年	小学5年	中学2年	
1	東 青	青 森 市	508	494	165	144	32.5%	29.1%	
2		平 内 町	68	42	30	11	44.1%	26.2%	
3	西 北	五所川原市	102	72	29	17	28.4%	23.6%	
4		つ が る 市	72	66	26	18	36.1%	27.3%	
5		鱒ヶ沢町	52	0	26	0	50.0%	—	
6		深 浦 町	0	66	0	33	—	50.0%	
7		板 柳 町	82	0	29	0	35.4%	—	
8		中 泊 町	0	54	0	13	—	24.1%	
9		中 南	弘 前 市	308	314	96	100	31.2%	31.8%
10			黒 石 市	66	62	26	17	39.4%	27.4%
11	平 川 市		54	32	21	0	38.9%	0.0%	
12	藤 崎 町		78	114	33	59	42.3%	51.8%	
13	上 北	十 和 田 市	122	66	47	24	38.5%	36.4%	
14		三 沢 市	112	132	29	42	25.9%	31.8%	
15		七 戸 町	60	0	33	0	55.0%	—	
16		東 北 町	36	0	8	0	22.2%	—	
17		おいらせ町	92	180	38	56	41.3%	31.1%	
18	下 北	む つ 市	84	126	32	0	38.1%	0.0%	
19		大 間 町	88	96	22	7	25.0%	7.3%	
20	三 八	八 戸 市	398	436	113	193	28.4%	44.3%	
21		南 部 町	72	102	38	22	52.8%	21.6%	
22		階 上 町	50	0	15	0	30.0%	—	
合 計			2,504	2,454	856	756	34.2%	30.8%	

7 地区別回答数の割合



8 研究顧問

質問項目の詳細検討、結果の考察等に対する指導助言のため、県内大学教授等に研究顧問を委嘱する。

- 中村由美子 氏（青森県立保健大学健康科学部看護学科 教授）
- 扇野 綾子 氏（弘前大学医学部保健学科 講師）